

産経新聞の健康面で院長が掲載されました。

ひうらクリニック院長 日浦祐一郎氏



わが国の死亡原因は、1位ががん、以下心臓疾患、肺炎、脳卒中です。がんについては、食生活の工夫や生活改善などをすることや、診断や検診などで早期に発見し治療することが重要です。近年、食生活の欧米化とともに増加した病気に大腸がんがあります。初期にはほとんど症状はありませんが、進行すると下痢・便秘などの排便異常や血便が出現し、さらに大きくなると腸閉塞になることもあります。

大腸がんの予防としては、まず食生活の改善です。食物繊維は腸内細菌に変化を起こさせ、発がん物質の生産を抑え、がんの発生を抑制する働きがあるといわれています。食物繊維を多く含む食品としては、穀物、豆類、キノコ類、海藻類などがあります。食生活の改善によりある程度がんは予防できると予測されています。しかし、これだけでは万全ではありません。食生活

教えてドクター

内視鏡検査が欠かせない

ひうら・ゆいちろう 平成14年熊本大医学部卒業。同年大阪大消化器外科学入局。国立病院機構大阪医療センター、市立西宮中央病院勤務。阪大大学院で食欲増進ホルモン、漢方の研究に従事し、医学博士学位取得。市立伊丹病院の勤務を経て、24年「ひうらクリニック」開設。

の改善を行うと同時に、早期診断・早期発見を行うことが重要になってきます。

大腸がんの場合は、特に重要です。早期診断・発見には、大腸カメラ（内視鏡）検査は欠かせません。これだけが あること、その部位、形、大きさ、進行具合が分かり、種類によっては内視鏡的な治療で済む場合があります。また、大腸カメラ治療で前駆病変といわれている腺腫を取ることによってがんの発生をなくすことができます。つまり、大腸がんの二次的予防になり得ます。がんは早期に発見すれば、治療可能な場合がほとんどです。近年増加している大腸がんの早期発見・治療をするために、早めに大腸カメラ検査を受けることをお勧めいたします。

大腸がんの早期診断・発見